

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)	授業科目	現代文
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合科学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「精選 現代文B」大修館書店				
担当教員	豊田 圭子,白神 宏				
到達目標					
<p>1. 論理的な文章を読み、構成・展開・論旨を客観的に理解し、要約することができる。自らの考えをまとめ、作文・発表などで適切に表現できる。</p> <p>2. 文学作品を読み、主題や人物・心情・情景描写を理解し、その効果を説明することができる。自らの感想を作文・発表などで適切に表現できる。</p> <p>3. 詩歌などの文学的文章の基礎を学び、表現を味わうことができる。自らも創作することができる。</p>					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		論理的な文章の構成・論旨を理解し、要約できる。それに対し自らの意見を論理的にまとめ、発表できる。	論理的な文章を読み、構成・論旨を理解、要約できる。自らの考えをまとめることができる。	論理的な文章を読み、構成・論旨を理解、要約できない。自らの考えをまとめることができない。	
評価項目2		文学作品について、主題や人物描写を理解し、その効果を説明できる。それに対し自らの感想を発表できる。	文学作品について、主題や人物描写を理解し、その効果を説明できる。それに対し自らの感想をまとめることができる。	文学作品について、主題や人物描写を理解・説明することができない。それに対し自らの感想をまとめることができない。	
評価項目3		詩歌などの文学的文章を学び、表現を味わい、文学的な表現を用いて自らも創作することができる。	詩歌などの文学的文章を学び、表現を味わい創作できる。	詩歌などの文学的文章の基礎が理解できない。自ら創作することができない。	
学科の到達目標項目との関係					
<p>進学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。</p> <p>進学士課程の教育目標 E② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。</p> <p>進学士課程の教育目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。</p>					
教育方法等					
概要	国語の理解能力・思考力・鑑賞力を養い、文章表現力を磨き言語活動の向上を図ることを目的とする。授業では近代以降の小説・評論・詩歌の学習を通して鑑賞力や想像力を育成し、主題を多角的にとらえる理解力、理論的に問題を考える思考力の向上を図る。語句・漢字学習を通して社会生活に必要な基本的な表現力・文章力を身につける。				
授業の進め方・方法	次回学習する単元については、語句の読みや意味を調べ把握しておくこと。また、疑問点や自らの意見を整理しておくこと。授業は応答を中心に進めるため、問いに対して主体的に応答すること。				
注意点	授業中に参考図書などを紹介するので、それをもとに自らの問題意識・関心を広げることがのぞまれる。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の進め方を把握する。	
		2週	随想：ミロのヴィーナス	文章中の難解な語句や慣用句の意味を調べ、理解する。	
		3週	随想：ミロのヴィーナス	随想を読み、文章の構成・展開を理解する。	
		4週	随想：ミロのヴィーナス	随想を読み、筆者の主張と根拠を正しく理解する。	
		5週	評論：人を指す言葉-自称詞・対称詞・他称詞	文章中の難解な語句や慣用句の意味を調べ、理解する。	
		6週	評論：人を指す言葉-自称詞・対称詞・他称詞	評論を読み、文章の構成・展開・論旨を理解する。	
		7週	評論：人を指す言葉-自称詞・対称詞・他称詞	評論の筆者の主張、根拠を理解する。評論を要約する。	
		8週	中間試験	1～7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。	
	2ndQ	9週	試験内容解説	中間試験の内容を理解し、復習する。	
		10週	近代詩	近代詩を読み、詩の解釈について考える。詩の独特の表現を味わい、詩的表現の効果を説明できる。	
		11週	詩の鑑賞文	印象にのこった詩の鑑賞文を書く。	
		12週	小説：こころ	作品の時代背景と作者について学習する。難解な語句・慣用句を調べ、理解する。	
		13週	小説：こころ	小説を読み、構成と表現を理解し、人間心理のあり様について考えを深める。	
		14週	小説：こころ	登場人物の葛藤など心理描写に注目して、物語を理解する。 作品の観賞文を書く。	
		15週	期末試験	9～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。	
		16週	期末試験内容解説	期末試験の内容を理解し、復習する。	
後期	3rdQ	1週	評論：こころは見える?	難解な語句・慣用句の意味を調べ、理解する。	
		2週	評論：こころは見える?	文章の展開と筆者の主張を理解する。「こころ」「感情」について考える。	
		3週	評論：こころは見える?	既習の小説「こころ」と合わせて読み、評論の考えを応用して考察する。	
		4週	評論：こころは見える?	文章の展開・筆者の主張を踏まえ、要約する。	

4thQ	5週	小説：赤い繭	難解な語句・慣用句の意味を調べ、理解する。 作者と時代背景について学習する。
	6週	小説：赤い繭	小説の展開をまとめる。作品に関する資料などをもとに、作品の問題点を考察する。
	7週	小説：赤い繭	作品の問題点や、資料などをもとに、小説の解釈を行う。
	8週	中間試験	1～7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
	9週	試験内容解説	中間試験の内容を理解し、復習する。
	10週	評論：猫は後悔するか	難解な語句・慣用句の意味を調べ、理解する。 展開・論旨を理解する。
	11週	評論：猫は後悔するか	評論の主題を読み取り、要約する。 自らの意見を論理的に作文で表現する。
	12週	現代の俳句	俳句の構成を理解し、鑑賞する。
	13週	現代の短歌・俳句	短歌の構成を理解し、鑑賞する。
	14週	創作活動(短歌・俳句)	短歌・俳句を創作・発表し、互いに批評する
	15週	期末試験	9～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
	16週	期末試験内容解説	期末試験の内容を理解し、復習する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	小テスト	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	0	100
基礎的能力	70	20	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)	授業科目	英語 A Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0004	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合科学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『MY WAY English CommunicationⅢ』森住 衛 他 (三省堂)				
担当教員	渡辺 真一				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。 2. 文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。 3. 中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。 4. 高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。 5. 毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。 5. TOEIC Bridgeで130点相当の点数を取ることができる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	各レッスンの文法事項が8割以上理解できる。	各レッスンの文法事項が7割以上理解できる。	各レッスンの文法事項が6割以上理解できない。		
評価項目2	各レッスンの内容が8割以上理解できる。	各レッスンの内容が7割以上理解できる。	各レッスンの内容が6割以上理解できない。		
評価項目3	各レッスンや単語テストの語彙が8割以上理解できる。	各レッスンや単語テストの語彙が7割以上理解できる。	各レッスンや単語テストの語彙が6割以上理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。					
教育方法等					
概要	本授業では、1、2年次に既習の学習項目を基礎とし、科学記事、物語等の様々な形式の英文を読むことにより、英語の基本的な構造を理解し、情報や書き手の意図を明確に把握できることを目的とする。授業では、英単語・熟語、文法・語法を基盤として英文を理解したうえで、様々なタスクに取り組む積極的な態度を養う。				
授業の進め方・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習(単語・熟語の意味調べ、本文の通読など)は授業前に済ませておく。 2. リーディングスキル(読解方略)に基づいた英文の読み方を養成する。 3. 様々なタスクに取り組むことで学習内容を定着させる。 4. 進度の関係上、教科書の課によっては課題することもある。 5. TOEIC Bridge、英検、全校一斉英単語テスト(「理工系学生のための必修英単語2600(COCET2600)」)などの成績は英語科内規に準じて加点材料とする。適宜、小テストや各課の復習テストなどを課す。 				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業の進め方、予習復習の仕方、テスト、参考書、シラバスなどについての説明	英文法、英語音声、リスニング、リーディングのコツについて概略を学ぶ。	
		2週	RS 1. Onomatopoeia 言語によるオノマトペの違いを知る。	主語と述語動詞	
		3週	RS 2. Gross National Happiness フータンという国について、また国民総幸福量という概念を学ぶ。	フレーズ・リーディング	
		4週	RS 3 The International Day of Peace 国際平和デーとその制定の経緯について知る。	代名詞	
		5週	RS 4 Arabic Calligraphy アラビア書道について知る。	未知語の推測	
		6週	RS 5 [G] Laughter Therapists 患者の回復に貢献する笑い療法士の活動について知る。	パラグラフ構成	
		7週	RS 5 [T] Secrets of Janken じゃんげんに勝つための秘訣とその理由について知る。	パラグラフ構成	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	試験解説と授業 RS 6 [G] Wild Raccoon Dogs in Tokyo 東京都心に生息する野生のタヌキの生態について知る。	ディスコースマーカー： 列挙・例示	
		10週	RS 6 [T] The Language Café スウェーデンにある言語を楽しむためのカフェについて知る。	ディスコースマーカー： 列挙・例示	
		11週	Signs around Town 1 (街なかの英語 アメリカ編) / Words and Culture 1 (ことばと文化 KEY)	言語にまつわる文化理解	
		12週	RS 7 [G] The High Line NYの廃線跡に建設されたハイライン公園について知る。	ディスコースマーカー： 時間的順序	
		13週	RS 7 [T] How Fast Can Humans Run? 男子100m走の歴代記録の推移について学ぶ。	ディスコースマーカー： 時間的順序	
		14週	RS 8 [G] Shortened Words in Texting 英語のメールにおける省略語の存在とその賛否について知る。	ディスコースマーカー： 比較・対照	
		15週	期末試験		
		16週	試験解説		

後期	3rdQ	1週	RS 8 [T] Plant Factories 植物を生産する工場について知る。	ディスコースマーカー： 比較・対照
		2週	RS 9 [G] Neighbors' Day 都市における住民の交流を深める「隣人の日」の意義を知る。	ディスコースマーカー： 原因・結果
		3週	RS 9 [T] Bicycle Sharing 都市で広まる自転車シェアリングのシステムについて知る。	ディスコースマーカー： 原因・結果
		4週	RS 10 [G] Thirty-Six Views of the Eiffel Tower 浮世絵に影響を受けて生まれた西洋芸術について知る。	スキミング
		5週	RS 10 [T] Blue Roses 遺伝子組み換え技術により誕生した青いバラについて知る。	スキミング
		6週	RS 11 [G] Join the ABC Tennis Club! テニススクールの広告を読み取る。	スキヤニング
		7週	RS 11 [T] Kyoto One-Day Tour バスツアーの広告を読み取る。	スキヤニング
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験解説と授業Lesson 1 Narrow Boats in Britain 英国におけるナローボートの役割の変遷と、現代での人気の理由を知る。	助動詞+受け身 / 比較級・最上級 / 関係代名詞what
		10週	Lesson 1 Narrow Boats in Britain 英国におけるナローボートの役割の変遷と、現代での人気の理由を知る。	助動詞+受け身 / 比較級・最上級 / 関係代名詞what
		11週	Lesson 2 A Miraculous Pianist 舘野泉さんの生き方を通じて、あきらめないことの大切さを知る。	no matter how ~ / 同格のthat / 分詞構文
		12週	Lesson 2 A Miraculous Pianist 舘野泉さんの生き方を通じて、あきらめないことの大切さを知る。	no matter how ~ / 同格のthat / 分詞構文
		13週	Lesson 3 iPS Cells iPS細胞の仕組みとそのはたらき、可能性を知る。	it is ~ that ... / 助動詞+受け身
		14週	Lesson 3 iPS Cells iPS細胞の仕組みとそのはたらき、可能性を知る。	it is ~ that ... / 助動詞+受け身
		15週	定期試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				英語の発音記号を見て、発音できる。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14

				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14

			高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14

				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14

評価割合

	試験	小テスト・課題等				その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 A IV	
科目基礎情報						
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合科学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	TOEICテスト究極アプローチ (成美堂)					
担当教員	白神 宏,岡田 美鈴,渡辺 真一,久保川 晴美					
到達目標						
ループリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本授業では、TOEICに対応できる読解力、リスニング力、語彙力の増強を図りながら、総合的英語力を向上させることを目的とする。将来も自力で英語学習を継続していくために、自分に適した英語学習方法を探究することも目指す。					
授業の進め方・方法	テキストの問題を授業で確認する中で、語彙や文法などを音読やペアワークを通して、定着を図る。授業では教科書以外に工学系の英文を利用してさまざまな内容の英語に触れることもある。授業に関連した内容を中心に小テストを行う。					
注意点	教科書音声ファイルは各自ダウンロードして、予習・復習に活用する。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Entertainment (1)	品詞		
		2週	Entertainment (2)	品詞		
		3週	Transportation / Airport (1)	名詞：可算名詞、不可算名詞、定冠詞		
		4週	Transportation / Airport (2)	名詞：可算名詞、不可算名詞、定冠詞		
		5週	Technology / Office Supplies (1)	動詞（時制と不規則変化）		
		6週	Technology / Office Supplies (2)	動詞（時制と不規則変化）		
		7週	Technology / Office Supplies (3)	動詞（時制と不規則変化）		
		8週	中間試験	1～7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。		
	2ndQ	9週	Housing / Building / Construction	形容詞・副詞		
		10週	Sightseeing / Guided Tour	前置詞		
		11週	Eating Out / Restaurant (1)	助動詞		
		12週	Eating Out / Restaurant (2)	助動詞		
		13週	Hospital / Health (1)	命令文		
		14週	Hospital / Health (2)	命令文		
		15週	定期試験	9～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。		
		16週	定期試験内容についての解説	定期試験の内容を理解する。		
後期	3rdQ	1週	Finance / Budget / Salary (1)	動名詞・不定詞		
		2週	Finance / Budget / Salary (2)	動名詞・不定詞		
		3週	Hobby / Sports / Art (1)	条件節		
		4週	Hobby / Sports / Art (2)	条件節		
		5週	Education / Schools (1)	分詞		
		6週	Education / Schools (2)	分詞		
		7週	Education / Schools (3)	分詞		
		8週	中間試験	1～7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。		
	4thQ	9週	Hotel / Service	関係詞		
		10週	Shopping / Purchases	仮定法		
		11週	Personnel / Training (1)	並列		
		12週	Personnel / Training (2)	並列		
		13週	Employment / Job Hunting (1)	主語と動詞の一致		
		14週	Employment / Job Hunting (2)	主語と動詞の一致		
		15週	定期試験	9～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。		
		16週	定期試験内容についての解説	定期試験の内容を理解する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	1	前1
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発音できる。	1	前1
				英語の発音記号を見て、発音できる。	1	前1

			リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	1	前1
			語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	前1
			文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	前1
			文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	前1
			中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	1	前1
			自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	1	前1
			中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	1	前1
			高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	2	前1
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	前1
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	前1
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	前1
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	前1
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前1
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前1
			毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	2	前1
			自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	前1
			毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	2	前1
			自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	前1

評価割合

	試験	課題・小テスト ・課題テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	文化地理学 (社会選択)
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合科学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	使用しない				
担当教員	白神 宏				
到達目標					
文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができる。 世界の食文化の現状について説明できる。 食文化が形成された背景について考察し、説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができる。		文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することがおおむねできる。		文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができない。
評価項目2	世界の食文化の現状について説明できる。		世界の食文化の現状についておおむね説明できる。		世界の食文化の現状について説明できない。
評価項目3	食文化が形成された背景について考察し、説明できる。		食文化が形成された背景についておおむね考察し、説明できる。		食文化が形成された背景について考察、説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	世界の諸民族は、それぞれ多様な文化を育んできた。また、文化は伝播や他文化との接触により絶えず変化してきた。国際社会の中で活躍する技術者として、多様な文化の存在を理解し尊重することは重要である。本授業では、食文化を素材として、文化の形成や伝播について理解を深めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	日本と世界の地理・歴史に関する基礎的知識を前提とする。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	日本の食文化 (1)		
		3週	日本の食文化 (2)		
		4週	日本の食文化 (3)		
		5週	朝鮮半島の食文化 (1)		
		6週	朝鮮半島の食文化 (2)		
		7週	朝鮮半島の食文化 (3)		
		8週	稲作の起源と伝播 (1)		
	2ndQ	9週	稲作の起源と伝播 (2)		
		10週	米とその料理法 (1)		
		11週	米とその料理法 (2)		
		12週	もち文化 (1)		
		13週	もち文化 (2)		
		14週	照葉樹林文化 (1)		
		15週	期末試験		
		16週			
後期	3rdQ	1週	照葉樹林文化 (2)		
		2週	照葉樹林文化 (3)		
		3週	麦文化とその伝播		
		4週	麦の料理法～パン (1)		
		5週	麦の料理法～パン (2)		
		6週	麦の料理法～パン (3)		
		7週	麦の料理法～麺 (1)		
		8週	麦の料理法～麺 (2)		
	4thQ	9週	麦の料理法～麺 (3)		
		10週	麦の料理法～麺 (4)		
		11週	世界の乳利用 (1)		
		12週	世界の乳利用 (2)		
		13週	世界の乳利用 (3)		
		14週	世界の乳利用 (4)		
		15週	定期試験		
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	体育特論 (一般総合選択)	
科目基礎情報							
科目番号	0017		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	総合科学科		対象学年	4			
開設期	前期・後期		週時間数	4			
教科書/教材	教養としてのスポーツ・身体文化、大修館書店						
担当教員	濱田 臣二						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	スポーツ・武道・体育に関する最新の理論および研究成果から、生涯体育に通じる武道やスポーツの科学的理論を理解させるとともに、健康やトレーニングに関する実習によって合理的に健康・体力の増進を図る資質や能力を育てる。						
授業の進め方・方法	通常は講義・演習（発表）を主として、理解を深めるために必要に応じて実習を行う。 授業内容に関する課題についてレポートを提出させる。						
注意点	実習の際は運動ができるウェア・シューズを準備すること。 貴重品の管理は各自行うこと。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	5	0	5	0	0	100
基礎的能力	90	5	0	5	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語演習 (一般総合選択)
-------------	------	-----------------	------	---------------

科目基礎情報				
科目番号	0021	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	総合科学科	対象学年	4	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	『アメリカン・ポップカルチャー』、町田哲司他、朝日出版			
担当教員	白神 宏, 渡辺 眞一, 中村 嘉雄			

到達目標				
1. 600語程度の英文を読み、理解するとともに、自分の考えを述べることができる。 2. テキストで取り上げられている身の回りの英単語、英文法、イディオムを理解できる。 3. テキストで取り上げられている、日本でも身近なアメリカ文化について考え、アメリカ文化と日本文化、そしてその違いを理解できる。				

ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	各セクションの文法を8割以上理解できる。	各セクションの文法を7割以上理解できる。	各セクションの文法を6割以上理解できない。	
評価項目2	各セクションの内容を8割以上理解できる。	各セクションの内容を7割以上理解できる。	各セクションの内容を6割以上理解できない。	
評価項目3	各セクションの語彙を8割以上理解できる。	各セクションの語彙を7割以上理解できる。	各セクションの語彙を6割以上理解できない。	

学科の到達目標項目との関係				
---------------	--	--	--	--

教育方法等				
概要	英文を読み内容を理解するだけでなく、アメリカと日本の文化の違いについて考えるとともに、自分の考えを発信する能力も育成する。			
授業の進め方・方法	1. 指示に従い予習をした上で授業に臨み、授業で各ユニットの解答、語彙、文法の確認を行う。 2. テキストの基本的な英文法、英単語の小テストを行う。 3. 各ユニットのテーマをもとに、アメリカ文化と日本文化、そしてその違いについて学ぶ。			
注意点	必ず、指定された箇所の予習を行い授業に臨むこと。			

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方、予習の仕方、テスト、シラバスについて
		2週	Unit 1 The Hamburger Icon	マクドナルドとアメリカ文化
		3週	Unit 2 Southern USA Cuisine	KFCにまつわる語彙
		4週	Unit 3 Coffee Drinks for the Planet	Starbucks Coffeeにまつわる語彙、文法
		5週	Unit 4 The Quick Snack	Dunkin' Donutsにまつわる語彙、文法
		6週	Unit 5 Modern Lifestyle	7-Elevenにまつわる語彙と文法
		7週	Unit 6 The Great White Way	Broadwayにまつわる語彙と文法
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験解説	
		10週	Unit 7 America's Dream Factory	Hollywoodにまつわる語彙と文法
		11週	Unit 8 Entertainment Capital of the World	Las Vegasにまつわる語彙と文法
		12週	Unit 9 Cartoon Kingdom	Disneyにまつわる語彙と文法
		13週	Unit 10 American Cyber-Culture	Video Gameにまつわる語彙と文法
		14週	Unit 11 America's National Pastime	MLBにまつわる語彙と文法
		15週	定期試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
-----------------------	--	--	--	--	--

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	1	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14
			英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発音できる。	1	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14
			英語の発音記号を見て、発音できる。	1	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14

			リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14

			毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14

評価割合

	試験	小テスト	課題	態度		その他	合計
総合評価割合	70	10	10	10	0	0	100
基礎的能力	70	10	10	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 C
科目基礎情報					
科目番号	O111		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合科学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	MED: Successful keys to the TOEIC listening and reading test INTRO [2nd Edition]桐原書店、Mark D. Stafford, Successful keys to the TOEIC listening and reading test 1 [4th Edition]桐原書店、Mark D. Stafford, 世界を読むメディア英語入門2016、金星堂、村尾純子他 SC: "First Time Trainer for the TOEIC(r) TEST, Revised Edition " Chizuko Tsumatori, Masumi Tahira Cengage 2017				
担当教員	伊藤 晃, 中村 幸子				
到達目標					
MED: ・TOEIC500点程度の英語を聞き取ることができる。 ・基本的な文法の知識を身につけ、活用することができる。 ・辞書を使って時事的な英語を読むことができる。 SC: ・TOEIC 500点程度の英語を聞き取ることができる。 ・TOEIC TESTに頻出する語彙を理解する事が出来る。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	各課の内容を8割以上理解できる。		各課の内容を7割以上理解できる。		各課の内容を6割以上理解できない。
評価項目2	各課の英文法を8割以上理解できる。		各課の英文法を7割以上理解できる。		各課の英文法を6割以上理解できない。
評価項目3	各課の語彙を8割以上理解できる。		各課の語彙を7割以上理解できる。		各課の語彙を6割以上理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。					
教育方法等					
概要	MED:リスニングとリーディングを中心に、英語力の向上を目指す。科学・技術の分野における英語に慣れるとともに、語彙と基本文法に関する知識を充実させ、基礎的な英語力を増強する。「読み」「書き」「聞く」を継続しながらも「話す」を加えた総合的な語学力の完成を目指し、自己表現力充実を目指す。 SC:TOEICの出題形式に慣れる。TOEIC TESTスコアの向上と基礎的な英語力の定着を目指します。				
授業の進め方・方法	MED:授業の前半は、TOEIC形式の問題演習を行う。授業の後半は、幅広い分野の様々なニュースを取り上げた英文記事を読む。 SC:TOEIC TESTの2大セクション、リスニングとリーディングを中心にした演習問題を行っていきます。必ず予習して授業に出て下さい。Listening part の音声は各自ダウンロードし、十分に活用して下さい。クラスでの自発的な発表を高く評価します。				
注意点	指示された予習復習を必ず行ってから授業に参加すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	MED:授業の進め方、評価方法、英語の学び方等について説明する SC:Pre-Test と授業の進め方や評価方法等についての説明	MED:授業の進め方、評価方法等の理解 SC:授業の進め方、評価方法等の理解	
		2週	MED:Unit 1 Daily Life、Chapter 1 Traveling with Your Dog SC:Unit 1 Shopping	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 3/Part 5/Part 7 SC:動詞	
		3週	MED:Unit 2 Places、Chapter 2Please Take Just a Nibble SC:Unit 1 Shopping	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 4/Part 5/Part 7 SC:動詞	
		4週	MED:Unit 3 People、Chapter 3Let's Go to the Museum Chapter 4A Fork in the Road SC:Unit 2 Daily Life	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 3/Part 5/Part 7 SC:名詞	
		5週	MED:Unit 4 Travel、Chapter 3 Let's Go to the Museum SC:Unit 2 Daily Life	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 4/Part 5/Part 6 SC:名詞	
		6週	MED:Unit 5 Business、Chapter 4 A Fork in the Road SC:Unit 3 Transportation	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 3/Part 5/Part 7 SC:代名詞	
		7週	MED:Unit 6 Office Unit 7 Technology、Chapter 4 A Fork in the Road SC:Unit 3 Transportation, Review 1	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 4/Part 5/Part 6 SC:代名詞、これまでの復習	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	MED:試験解説、Unit 8 Personnel、Chapter 5 Products by Women for Women Chapter SC:試験解説、Unit 4 Jobs	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 3/Part 5/Part 7 SC:形容詞と副詞	
		10週	MED:Unit 9 Management、Chapter 5 Products by Women for Women Chapter SC:Unit 4 Jobs	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 3/Part 5/Part 7 SC:形容詞と副詞	
		11週	MED:Unit 10 Purchasing、Chapter 6 Japan's Tokusatsu Hero Gone Global SC:Unit 5 Meals	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 4/Part 5/Part 7 SC:時制	
		12週	MED:Unit 11 Finances、Chapter 7 Go for the Gold with New Wheelchairs! SC:Unit 5 Meals	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 3/Part 5/Part 7 SC:時制	

		13週	MED:Unit 12 Media Unit 13 Entertainment, Chapter 8 Manzai for Education SC:Unit 6 Communication	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 3/Part 4/Part 5/Part 6/Part 7 SC:受動態・分詞
		14週	MED:Unit 14 Health Unit 15 Restaurants, Chapter 9Your Car Might Be Hacked SC:Unit 6 Communication, Review 2	MED:TOEIC Part 1/Part 2/Part 3/Part 4/Part 5/Part 6/Part 7 SC:受動態・分詞、これまでの復習
		15週	前期末試験	
		16週	試験解説	
後期	3rdQ	1週	MED:Unit 1 Daily Life, Chapter 10How Much Is This Autograph? SC:Unit 7 Fun	MED:品詞の違い 広告を読む SC:動名詞と不定詞
		2週	MED:Unit 2 Places, Chapter 11Math Drills for Cambodian Pupils SC:Unit 7 Fun	MED:カードを読む SC:動名詞と不定詞
		3週	MED:Unit 3 People, Chapter 12Flying Causes Problems SC:Unit 8 Office Work	MED:代名詞 図表と手紙を読む (1) SC:助動詞
		4週	MED:Unit 4 Travel, Chapter 13A Romantic Bridge between... SC:Unit 8 Office Work	MED:案内を読む SC:助動詞
		5週	MED:Unit 5 Business, Chapter 14Microbes Decide Your Health SC:Unit 9 Meeting	MED:動詞の形 通知・メモを読む SC:比較
		6週	MED:Unit 6 Office, Chapter 15"Light" for a Buddhist Temple SC:Unit 9 Meeting	MED:手紙を読む SC:比較
		7週	MED:Unit 7 Technology Unit 8 Personnel SC:Review 3	MED:語い関連 図表と手紙を読む (2) 記事を読む (1) SC:これまでの復習
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	MED:試験解説、Unit 9 Management, Chapter 16Advanced Health Checker SC:試験解説、Unit 10 Travel	MED:接続詞 通知を読む SC:前置詞
		10週	MED:Unit 10 Purchasing, Chapter 17Do You Know Where Santa Lives? SC:Unit 10 Travel	MED:手紙とレシートを読む SC:前置詞
		11週	MED:Unit 11 Finances, Chapter 18Is It Fair or Unfair? SC:Unit 11 Finance	MED:時制 レシピを読む SC:接続詞
		12週	MED:Unit 12 Media, Chapter 19The Warmest Race in the Coldest Land SC:Unit 11 Finance	MED:記事を読む (2) SC:接続詞
		13週	MED:Unit 13 Entertainment, Chapter 20Solar Cells for the Near Future SC:Unit 12 Business	MED:前置詞 Eメールを読む SC:関係詞
		14週	MED:Unit 14 Health Unit 15 Restaurants,Chapter 20 Solar Cells for the Near Future SC:Unit 12 Business, Review 4	MED:FAXを読む、熟語 アンケート・申込用紙を読む SC:関係詞、これまでの復習
		15週	定期試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題・小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	150	50	0	0	0	0	200
基礎的能力MED	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力SC	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	応用ネットワーキング
科目基礎情報					
科目番号	0112		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	総合科学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	徹底攻略 Cisco CCNA/CCENT教科書 ICND1編[640-802J][640-822J]対応、インプレスジャパン、ソキウス・ジャパン				
担当教員	日高 康展, 福田 龍樹				
到達目標					
1. CLIを用いてルータの設定をすることができる。 2. RIPを用いて小規模ネットワークの構築をすることができる。 3. アクセスリストについて理解できる。 4. アクセスリストをインターフェースに適用し、パケットフィルタリングを行うことができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ルータが適切な動作をするようにCLIを用いて設定をすることができる	CLIを用いてルータの設定をすることができる	CLIを使うことができない		
評価項目2	RIPを用いて小規模ネットワークの構築を行うことができる	RIPを用いてルータの接続をすることができる	RIPについて理解していない		
評価項目3	アクセスリストについて完全に理解し、その役割と設定方法について詳しく説明できる。	アクセスリストについて理解し、その役割と設定方法についてある程度説明できる。	アクセスリストについて説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	基礎ネットワーキングで学んだ事項を演習で確認する。実際にルータを操作して、パスワードリカバリ、TFTP、RIP、ACLについて学習する。またUTPケーブルの構造についても理解する。				
授業の進め方・方法	原則として基礎ネットワーキングの単位取得者を対象とする。演習が中心である。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスおよび基礎知識の確認	基礎ネットワーキングで学んだことを再確認する	
		2週	CLIの操作1	CLIを用いてルータの情報を知ることができる	
		3週	CLIの操作2	CLIを用いてルータの簡単な設定をすることができる	
		4週	パスワードの設定	パスワードによりセキュリティが高まることを理解し、実際にパスワードを設定することができる	
		5週	パスワードリカバリ	パスワードが分からないルータの復旧作業をすることができる	
		6週	小テスト	1～6週の内容について理解し、実際にルータの操作をすることができる	
		7週	静的ルーティング1	静的ルーティングの仕組みを理解しルータを設定することができる	
		8週	静的ルーティング2	静的ルーティングを用いて2台以上のルータを接続することができる	
	2ndQ	9週	RIPの使用1	RIPの動作について理解しRIPの設定ができる	
		10週	RIPの使用2	RIPを用いて2台以上のルータを接続することができる	
		11週	RIPの使用3	小規模なネットワークの設定ができる	
		12週	RIPの使用4	小規模なネットワーク同士を接続することができる	
		13週	TFTPによるIOSのバックアップ	TFTPを用いてIOSのバックアップができる	
		14週	TFTPによるIOSのリストア	TFTPを用いてIOSのリストアをすることができる	
		15週	小テスト	7～14週の内容について理解し、実際にルータの操作をすることができる	
		16週			
後期	3rdQ	1週	アクセスリストによるパケットのフィルタリング	アクセスリストによるパケットフィルタリングの概要を理解できる。	
		2週	ルータの動作	アクセスリストが適用されたルータの挙動について理解できる。	
		3週	アクセスリスト作成時の注意事項	処理の順番、暗黙の拒否などアクセスリスト作成時に注意すべき事項について理解できる。	
		4週	ワイルドカードマスク	ワイルドカードマスクの役割と使用方法について理解できる。	
		5週	標準IPアクセスリストの作成	標準IPアクセスリストの作成方法について理解できる。	
		6週	拡張IPアクセスリストの作成	拡張IPアクセスリストの作成方法について理解できる。	
		7週	アクセスリストのインターフェースへの適用	作成した標準IPアクセスリスト及び拡張IPアクセスリストをインターフェースへ適用する方法を理解できる。	

4thQ	8週	中間試験	1～7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
	9週	試験内容についての解説	中間試験の内容を理解する。
	10週	ネットワークの構築 1	PC、スイッチングハブ、ルータをケーブルで正しく接続し、パケットフィルタリングの実験環境を構築できる。
	11週	ネットワークの構築 2	各PC、インターフェースに適切なIPアドレスを設定し、LANを構築することができる。
	12週	標準IPアクセスリストによるパケットフィルタリング	標準IPアクセスリストを作成、適用し、パケットフィルタリングを行うことができる。
	13週	拡張IPアクセスリストによるパケットフィルタリング1	拡張IPアクセスリストを作成、適用し、パケットフィルタリングを行うことができる。
	14週	拡張Pアクセスリストによるパケットフィルタリング2	拡張IPアクセスリストによってFTPなど特定のアプリケーションに対してパケットフィルタリングを行うことができる。
	15週	定期試験	9～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
	16週	定期試験内容についての解説	定期試験の内容を理解する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	法学 (社会選択)
科目基礎情報					
科目番号	0113		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	総合科学科		対象学年	5	
開設期	前期・後期		週時間数	4	
教科書/教材	「民法」、小川富之著、八千代出版				
担当教員	廣瀬 孝壽				
到達目標					
1. 基礎的な法の特性を理解できる。 2. 具体的な問題を法的に説明することができる。 3. 法の目的を理解し、公正な社会について考えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	基礎的な法の特性を十分に理解できる。	基礎的な法の特性をほぼ理解できる。	基礎的な法の特性を理解できない。		
評価項目2	具体的な問題を法的に十分に説明することができる。	具体的な問題を法的にほぼ説明することができる。	具体的な問題を法的に説明することができない。		
評価項目3	法の目的を理解し、公正な社会について十分に考えることができる。	法の目的を理解し、公正な社会についてほぼ考えることができる。	法の目的を理解し、公正な社会について考えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程の教育目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。 準学士課程の教育目標 F③ 技術者としての役割と責任を認識できる。 準学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。 準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。					
教育方法等					
概要	社会生活と法との関係を理解し、法が形成された歴史的意義を学習する。具体的問題の法的な解決手段を考え、問題点を探し、より良い社会にするために必要な法のあり方を積極的に考える。				
授業の進め方・方法	具体的事件を取り上げ、関連する法概念を解説するので、より良い解決策を考えること。法律の条文は膨大であり、また、法改正によって変化し続けるものであるため、教えてもらうという意識よりも、法的に思考できる社会人になることを意識して学習すること。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	レポートなど	合計		
総合評価割合	80	20	100		
基礎的能力	80	20	100		
専門的能力	0	0	0		
分野横断的能力	0	0	0		

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	文化交流史 (社会選択)
科目基礎情報					
科目番号	0114		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合科学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「謎とき日本近現代史 (講談社現代新書)」、野島 博之著、講談社				
担当教員	大熊 智之				
到達目標					
1) 東アジア地域の近代史の流れが理解できる。 2) 東アジア世界の成り立ちについて理解できる。 3) 東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景が理解できる。 4) 文化の多様性について理解し、考察することができる。 5) 歴史に対する自らの意見を持つことができる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		東アジア地域の近代史の流れが十分に理解できる。	東アジア地域の近代史の流れがほぼ理解できる。	東アジア地域の近代史の流れが理解できない。	
評価項目2		東アジア世界の成り立ちについて十分に理解ができる。	東アジア世界の成り立ちについてほぼ理解ができる。	東アジア世界の成り立ちについて理解ができない。	
評価項目3		東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景が十分に理解できる。	東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景がほぼ理解できる。	東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。 準学士課程の教育目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。 準学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。 準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。					
教育方法等					
概要	東アジアの近現代史の理解を行う。特にその中で国同士の交流史に重きを置いてこれまで習ってきた歴史的知識を深めると同時に、他国の歴史教育に触れることによって違いを理解することが目的である。これまで以上に隣国と接することとなるだろうこれからの社会を生きていくための力を育てていく。				
授業の進め方・方法	教科書をもとに映像資料を含めた資料・史料を使い授業を展開する。タイムリーな話題に関するプリントなどは適宜配布予定であるが、教科書・ノートを毎回準備すること。世界の出来事や話題に対して興味を持ち授業に参加されたい。講義以外にもディベートや発表の場を設け、自らの歴史観を育てていけるように、授業に参加されたい。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	アヘン戦争、明治維新 (1)	アヘン戦争は世界にどう伝わったのか、台湾出兵、征韓論	
		2週	アヘン戦争、明治維新 (2)	台湾出兵	
		3週	アヘン戦争、明治維新 (3)	征韓論	
		4週	日清戦争と台湾割譲 (1)	脱亜論、台湾総督	
		5週	日清戦争と台湾割譲 (2)	霧社事件、華夷体制	
		6週	日清戦争と台湾割譲 (3)	明成皇后	
		7週	日露戦争と朝鮮の植民地化 (1)	日本海海戦	
		8週	日露戦争と朝鮮の植民地化 (2)	東遊運動、アジア民族運動	
	2ndQ	9週	日露戦争と朝鮮の植民地化 (3)	日韓協約	
		10週	辛亥革命と民族運動 (1)	孫文、梅屋庄吉	
		11週	辛亥革命と民族運動 (2)	大アジア主義演説、宮崎滔天	
		12週	辛亥革命と民族運動 (3)	民族自決、米騒動	
		13週	満州事変と「満州国」(1)	柳条湖事件、溥儀	
		14週	満州事変と「満州国」(2)	東三省、塘沽停戦協定	
		15週	満州事変と「満州国」(3)	五族協和、王道楽土	
		16週	定期試験	1~15週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。	
後期	3rdQ	1週	日中戦争 (1)	盧溝橋、援蒋ルート	
		2週	日中戦争 (2)	第二次上海事変	
		3週	日中戦争 (3)	南京政府、重慶政府	
		4週	アジア・太平洋戦争と国共内戦 (1)	ハルノート	
		5週	アジア・太平洋戦争と国共内戦 (2)	南進論と北進論、光復軍	
		6週	アジア・太平洋戦争と国共内戦 (3)	内戦で戦った日本人、中台での国共内戦の描かれ方の違いは	
	4thQ	7週	朝鮮戦争とベトナム戦争 (1)	2つの主義、東西冷戦	
		8週	朝鮮戦争とベトナム戦争 (2)	南ベトナム解放軍	
		9週	朝鮮戦争とベトナム戦争 (3)	日米安全保障条約	
		10週	国交正常化 (1)	戦後補償、文化大革命	
		11週	国交正常化 (2)	朴正熙、金日成	
		12週	国交正常化 (3)	ホーチミン	

	13週	改革・開放と民主化（1）	4つの現代化
	14週	改革・開放と民主化（2）	2・28事件、光州事件
	15週	改革・開放と民主化（2）	学生運動
	16週	定期試験	1～15週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	2	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	

評価割合

	試験	課題・発表・ディベート	リアクション・ペーパー	合計
総合評価割合	70	20	10	100
基礎的能力	70	20	10	100

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	哲学・倫理学 (社会選択)	
科目基礎情報						
科目番号	0115		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合科学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	改訂版「いのちとすまいの倫理学」(工藤和男著、晃洋書房、2010年)					
担当教員	安部 力					
到達目標						
1:文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。 2:哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。 3:諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。 4:諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。 5:現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。 6:社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。 7:環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。 8:国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解し、自己の将来について生き方を模索できる。	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解し説明できる。	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できていない。			
現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解し、より良い社会の構築を模索できる。	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解し説明できる。	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できていない。			
環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解し問題解決の模索ができる。	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解し説明できる。	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できていない。			
学科の到達目標項目との関係						
進学士課程の教育目標 F③ 技術者としての役割と責任を認識できる。 進学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。 進学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。						
教育方法等						
概要	本授業は、技術者として備えるべき意識や、技術と社会の関係について、哲学(倫理)的思索を深めることを目的とする。価値観が多様化している現代社会において、人は自由に自己の価値観を選択し、構築出来る。そのような状況の中、「人として」「技術者として」生きていく上で何が必要なのか。様々な哲学思想・宗教の思考様式を紹介しながら、それを自己のものとして理解し、活用できることを目指す。					
授業の進め方・方法	哲学における様々な思考様式を用い、「現代社会における倫理的問題」について考察し、討論する。毎時間配付する資料と教科書を事前に読み、論点を把握した上で授業に参加することを必要とする。また、授業ではグループワーク形式によるディベート・プレゼンテーションなどを行うため、「開かれた思考」と主体的な参加姿勢、また他者の意見を傾聴する社会的素養を求める。					
注意点	「自己の意見」の表現を必ず行う機会を設けるため、普段から身の回りや社会の動きなど時事問題に関心を持って、授業に臨むこと。また、自己と他者の価値観の根拠や、その相違をみつめた上で、自己の方向性を創出できること。そのために必要な問題意識や様々な思考方法を理解し、身に付けていることも求める。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス：様々な視角と思考方法（倫理的ジレンマなど）	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。		
		2週	哲学(倫理学)の射程1：懐疑的自己と自己証明	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。		
		3週	哲学(倫理学)の射程2：クリティカルシンキング（基準と価値観）	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。		
		4週	哲学(倫理学)の射程3：科学的仮説の自己矛盾と限界（思考実験）	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。		
		5週	哲学(倫理学)の射程4：運命論と自由意思について	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。		
		6週	哲学(倫理学)の射程5：運命論と自由意思についてのディベート	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。		
		7週	哲学(倫理学)の射程6：時空の最小単位とパラドックス	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。		
		8週	哲学(倫理学)の射程7：量子論と宇宙論の現代社会に与える影響と展開	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。		
	2ndQ	9週	中間試験			
		10週	環境倫理の思想的背景	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。		
		11週	環境倫理学の基礎1：産業発展と環境破壊への関心	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。		
		12週	環境倫理学の基礎2：環境問題解決への様々な視座と課題	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。		

		13週	食を取り巻く倫理的課題 1：個人レベルでの食事情の変化とその問題（社会的背景とその解法）	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。
		14週	食を取り巻く倫理的課題 2：国家レベルでの食糧問題（自給率と輸入率が抱える問題とその解法）	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。
		15週	食を取り巻く倫理的課題 3：地球規模の食糧問題及びその解決に向けた国際協力について（人口爆発と耕地面積の減少、水質悪化）	国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。
		16週	期末試験	
後期	3rdQ	1週	生命倫理学：生と死の定義及びその考察意義	諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。
		2週	「死」を扱う技術 1：「死亡時刻」の変化と社会的背景	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		3週	「死」を扱う技術 2：脳死臓器移植の社会的背景と倫理的課題	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		4週	「死」を扱う技術 3：脳死臓器移植に関するグループワークとプレゼンテーション	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		5週	「死」を扱う技術 4：安楽死問題の社会的背景と倫理的課題	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		6週	「死」を扱う技術 5：安楽死問題がもたらす社会に関するグループワークとプレゼンテーション	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		7週	「死」を扱う技術 6：安楽死問題と脳死臓器移植がもたらす社会的影響について	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		8週	生物学的死、社会的死、「ひととしての死」を考える視座	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
	4thQ	9週	中間試験	
		10週	「ひとのいのち」を考える大前提	諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。
		11週	「生」を扱う技術 1：「ひとのはじまり」と法的定義	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		12週	「生」を扱う技術 2：出生前診断と人工妊娠中絶に関するグループワーク	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		13週	「生」を扱う技術 3：不妊治療問題の社会的背景と「こども」の人権について	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		14週	「生」を扱う技術 4：遺伝子治療と遺伝子ドーピング。人体改造がもたらす社会的影響について	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		15週	生命とそれに関連する技術の進展がもたらす社会に対する視座	文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	前1,後11
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	前1
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	前2,前6,前10
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	前15
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	前1,前5,前15,後10
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	2	前12
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	前1,後1
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	後1

評価割合

	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	20	40	10	0	0	100
基礎的能力	30	20	40	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	文化地理学 (社会選択)
科目基礎情報					
科目番号	0116		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合科学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	使用しない				
担当教員	白神 宏				
到達目標					
文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができる。 世界の食文化の現状について説明できる。 食文化が形成された背景について考察し、説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができる。		文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することがおおむねできる。		文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができない。
評価項目2	世界の食文化の現状について説明できる。		世界の食文化の現状についておおむね説明できる。		世界の食文化の現状について説明できない。
評価項目3	食文化が形成された背景について考察し、説明できる。		食文化が形成された背景についておおむね考察し、説明できる。		食文化が形成された背景について考察、説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
<p>準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。</p> <p>準学士課程の教育目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>準学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。</p> <p>準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。</p>					
教育方法等					
概要	世界の諸民族は、それぞれ多様な文化を育んできた。また、文化は伝播や他文化との接触により絶えず変化してきた。国際社会の中で活躍する技術者として、多様な文化の存在を理解し尊重することは重要である。本授業では、食文化を素材として、文化の形成や伝播について理解を深めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	日本と世界の地理・歴史に関する基礎的知識を前提とする。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	日本の食文化 (1)	今日の日本の食文化の特色について説明できる。	
		3週	日本の食文化 (2)	日本の伝統的食文化の形成過程について説明できる。	
		4週	日本の食文化 (3)	明治期以降の日本の食文化の変容過程について説明できる。	
		5週	朝鮮半島の食文化 (1)	高麗の時代までの朝鮮半島の食文化の特色について説明できる。	
		6週	朝鮮半島の食文化 (2)	高麗の時代以降の著線半島の食文化の変化過程について説明できる。	
		7週	朝鮮半島の食文化 (3)	朝鮮半島の食事作法の特色について説明できる。	
		8週	稲作の起源と伝播 (1)	稲の植物的特性と稲作の期限について説明できる。	
	2ndQ	9週	稲作の起源と伝播 (2)	稲作の伝播の過程について説明できる。	
		10週	米とその料理法 (1)	米の料理法と地域的特性との関連について説明できる。	
		11週	米とその料理法 (2)	米の料理法の発展・伝播の過程について説明できる。	
		12週	もち文化 (1)	もち利用の地域的特性について説明できる。	
		13週	もち文化 (2)	アジア諸地域のもち文化の特性について説明できる。	
		14週	照葉樹林文化 (1)	照葉樹林地帯の地理的特性と文化的特色について説明できる。	
		15週	期末試験	1～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。	
		16週	期末試験内容についての解説	期末試験の内容を理解する。	
後期	3rdQ	1週	照葉樹林文化 (2)	照葉樹林文化の諸要素について地域的特性を説明できる。	
		2週	照葉樹林文化 (3)	照葉樹林文化の諸要素について地域的特性を説明できる。	
		3週	麦文化とその伝播	麦の栽培地域の地理的特性と料理法の変遷について説明できる。	
		4週	麦の料理法～パン (1)	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。	
		5週	麦の料理法～パン (2)	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。	
		6週	麦の料理法～パン (3)	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。	
		7週	麦の料理法～麺 (1)	麺の系列と伝播地域の過程について説明できる。	
		8週	麦の料理法～麺 (2)	世界各地の麺文化の特色について説明できる。	

4thQ	9週	麦の料理法～麵（3）	世界各地の麵文化の特色について説明できる。
	10週	麦の料理法～麵（4）	世界各地の麵文化の特色について説明できる。
	11週	世界の乳利用（1）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
	12週	世界の乳利用（2）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
	13週	世界の乳利用（3）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
	14週	世界の乳利用（4）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
	15週	まとめ	
	16週	定期試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経済学 (社会選択)	
科目基礎情報						
科目番号	0117		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科		対象学年	5		
開設期	前期・後期		週時間数	4		
教科書/教材	使用しない					
担当教員	吉村 英俊, 福井 直人					
到達目標						
<p>1) 資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。</p> <p>2) 現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。</p> <p>3) 株式会社ないし企業経営のしくみ、およびその今日的動向について、理論と現実の双方を理解できる。</p> <p>4) 地域・国内・海外の経済情勢を踏まえ、今後の経済や経営のあり方について自分なりの意見を主張することができる。</p>						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について正しく理解できる。		資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割についておおまかに理解できる。		資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できない。	
評価項目2	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて正しく解できる。		現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについておおまかに解できる。		現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて解できない。	
評価項目3	経済・経営に関する基礎的用語及びそれらに関連するメディア情報を適切に理解できる。		経済・経営に関する基礎的用語及びそれらに関連するメディア情報をほぼ理解できる。		経済・経営に関する基礎的用語及びそれらに関連するメディア情報を適切に理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
<p>準学士課程の教育目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。</p> <p>準学士課程の教育目標 F③ 技術者としての役割と責任を認識できる。</p> <p>準学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。</p> <p>準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。</p>						
教育方法等						
概要	技術者においては、自らの専門知識を活かすために、経済や経営、法律などの社会科学に関する知識を習得する必要がある。本授業では、経済・経営に関する基礎的知識を学び、現在国内外で繰り広げられている経済情勢を理解し、説明できるようにする。					
授業の進め方・方法	とくに基礎知識は必要としないが、本授業を機会に新聞やニュースを見るように心掛けて欲しい。					
注意点						
授業計画						
	週	授業内容			週ごとの到達目標	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動 (農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等) などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	
			公民	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
			地歴・公民	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2					
評価割合						
		試験	合計			
総合評価割合		100	100			
基礎的能力		100	100			